

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	678 臨時河川等整備事業	会計	01	一般会計
		款	08	土木費
		項	03	河川費
基本 施策	20 美しい川の環境を維持する	目	03	準用河川改修対策費
		細目	632	準用河川改修事業
行革大綱の重点事項番号		細々目	51	臨時河川等整備事業
担当部課	コード	191000	担当者	43 - 2329
	名称	産業建設部 建設2課	氏名	岩野 庄司 連絡先 (内線) 254

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	河川近隣の住民	※対象件数
成果(どうする)	洪水による氾濫の未然防止や、河川環境の保全を図れる。	
根拠法令・要綱等	河川法	
開始年度	平成 16 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H22 事業 内容	河川環境を維持しながら準用河川改修整備を実施する。 平成22年度事業内容 2件 谷田川修繕工事 1式 東光寺川浚渫工事 L=65m	
社会情勢 の変化等	河川改修、浚渫等水害の未然防止のため、防災意識の向上と要望の増加	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	事業内容に記載
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
実施した箇所数	件		目標	2	1	
			実績	2	2	3
			目標			
			実績			

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
計画に対する進捗率	執行事業費÷全体事業費	%	目標	100	100	100	100
			実績	100	100	100	100
			目標				
			実績				

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの 財源 内訳	国庫支出金	1,225	909	1,500	1,500
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	1,225	909	1,500	1,500
事業投入人件費(B)		0.1人	0.1人	0.1人	0.1人
フルコスト(A)+(B)		1,945	1,829	2,220	2,220

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	○
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業		
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業	○	
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
洪水による氾濫防止や、河川環境の保全を図る為、計画的に浚渫等の維持工事を行う		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	○
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。	【計画に遅れが生じている場合、改善策】
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効率性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	○
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】 社会資本整備総合交付金事業	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	工事箇所の優先順位を付け、緊急度の高いものから整備を進める。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 浚渫工事では、土砂の堆積量や人家への影響等を考慮し、箇所決定を行なった。又、災害復旧事業を鑑み事業展開を実施した。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	中井 秀幸
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 洪水による氾濫防止や、河川環境の保全を図る為、計画的に浚渫等の維持工事を行う
現時点における課題、その他	財政状況が厳しいことから、維持工事必要ヶ所に比べ予算の確保が難しい。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	工事箇所の優先順位を付け、緊急度の高いものから順次整備を進めるとともに環境に配慮した河川整備を進める必要がある。